現代日本人の魂のゆくへ

石 井 研

士

千の風になって

マが放送された。 セラーとなり、八月にはテレビで四夜に渡って同名のドラ ル歌手の秋川雅史氏が歌う「千の風になって」がミリオン 新井満氏が作詞した「千の風」がブームだという。テノー

苦しみも個々人で抱え込んでしまっている」というコメン 進氏の分析として「死者との交わりが個的になり、痛みや めさせたのではないか」としている。また宗教学者の島薗 言葉があるように、日本人になじみがある考え方を、 して、歌の持つアニミズム的な要素が、「八百万の神いう んでいる(平成一九年六月二〇日)。新井満氏のコメントと -が掲載されている。 なぜ「千の風」がヒットしたのか、朝日新聞が特集を組 目覚

> ようになる。「私のお墓の前で泣かないでください。そこ る。夜は星になってあなたを見守る。」 にきらめく雪になる。朝は鳥になってあなたを目覚めさせ す。秋には光になって畑にふりそそぐ。冬はダイヤのよう ません。千の風になってあの大きな空を吹きわたっていま に私はいません。眠ってなんかいません。死んでなんかい 雑ではない。重複する歌詞を削除して文章にすると、次の 点である。死者が残された者に語りかけるメッセージは複

よく知られている。 魂の居場所が祀り手によって柔軟に解釈されていることも、 ように、日本人には馴染みのあるものである。また死者の 男を初めとした多くの民俗学者・宗教学者が指摘している 死者が生者の身近にいて見守る、という感覚は、 柳田 玉 現代日本人の魂のゆくへ

うかは別として、死者は風になり、光、雪、鳥、星になっ 魂の偏在を日本人特有のアニミズム的感覚と捉えるかど

「千の風」で特徴的なのは、死者が一人称で語りかける

182

見られず、祀り手の背景にも集団性は希薄である。現世で く。死者の魂は、自分を中心に選別されている。この意味 ではないか。 の個性が祀り手との生前の情緒的関係で固定しつつあるの で死者との関係はきわめて個人的である。死者に集団性が しくない死者は、関係が修復されることなく忘却されてい 人間関係は、死後においても延長される。他方で、居て欲 ていた人物や敵対者ではないだろう。この世での望ましい 愛情を抱いていた親しい人物であって、憎悪の感情を持っ たっているのだろうか。そうあって欲しい故人は、生前に ところで、死者は誰でも千の風になって大空を吹きわ

儀礼とたましい

と軌を一にするのである」という。 安的な状態にあった霊魂を安定させることを大きな目標と と「成人式は、この世に生を受けたものが、それまでの不 がけず「霊魂」に出会い、驚くことがある。宮田登による 伝統的な年中行事や通過儀礼の説明を読んでいて、 霊魂 の安定化は、肉体的に一人前になったこと

> 人式がこうした説明からまったく離れてしまっていること しろ民俗学の説明が本来の意味であるとすれば、 説く民俗学では、かくだんに特異というわけではない。 こうした説明は、人の誕生から死、そして祖霊化過程 現在

が、私の驚きにつながっている。

若者は魂の成長ができていないから成人式での醜態が生じ 日では十分な説得力を持つことはない。 るのだといってみても、祖先崇拝させ変容してしまった今 霊魂の成長と肉体の成長とを別のものと考えて、 昨今の

民俗学では、通過儀礼は魂との関係で語られる。

先に引

死者に対して行われる儀礼である。」 り、「死は肉体と霊魂の分離であり、葬式から後の供養は したと信じられたのであろう。」ということになるのであ 気持ちが表れており、ちょうど一年目に赤子の霊魂が固定 行事には、子の将来についてとりわけ期待する大人たちの 用した宮田の文献に依拠すれば「百日目あるいは初誕生の

えての霊魂の更新に重点があるという分析は、 の正月には適応できないだろう。 あると説明する。しかしながら、大正月は歳神の来臨を迎 る。民俗学では、正月は「生命の更新を祝う春の行事」で る構造自体を失っているためである。 実は、年中行事も同様の視点から説明されてきたのであ それは歳神を成立させて もはや都

ヘルマン・オームスの祖先崇拝;

死 を発表 族学会研究大会で、 の儀礼の類似 宗教学者のヘルマ 表した。 た。 オー の指摘に着想を得て、 ムスは、 日本人の霊魂の循環に関する ン・オー ファン・ ・ムス は、 デ ĺ 昭 死者と生者との 和 四 1 年 ゥ 0 \dot{O} 枚 誕 H 生と |本民 間 0 図

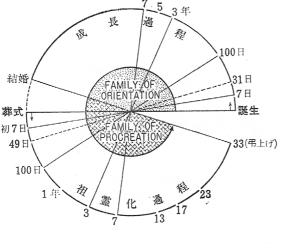


図1 オームス・ヘルマンの生死観図式

類似的 後、 で、 どっていることを指摘 供の名前は十四 三回忌で、 つ期間を過ごす。 彼は第 戒名はしばらくの 両者は約 な成長過程があることを示して見せたのである。(6) 結婚年齢も二十歳代である。 ケ 日後に神棚に置 両者の過程がほぼ相応した時 角の 第四 は、 穢れと浄化に関わる同様 してい 間 仏壇の中に安置され、 る。 ヶ月を経た母親と遺族は百 かれる。 弔 1 上げは二三回忌か三 第二の 第三は、 間的経過をた 誕生した子 類似は命名 の特徴を持 命名式の Н

する。 する。 婚をして跡取りを立てることができれば、 生がほぼ類似したふたつの期間によって成り立っ ことを目指す儀礼である。 オー そしてオームスは、 結婚は、 弔い 生きている間の人生は人の一 ムスは、 上げは新し 個人を確立した者が新たに共同体に参加 日本人の生と死に関する民俗から、 とくに弔 11 魂が祖先の世界に入ることを意味 13 上げと結婚 生の前半に過ぎず、 第二の期間 0 類 7 似を指 人 を成 ると 摘

目に穢れから解放される。

に当たる部分と、 過程としてつなげているが、 図からも明らかなように、 後半の部分である祖霊化 オー 弔い上げ後から誕生へ ムズは、 の 人 過程とを 0) 生 0 は断 連続 前 *

功に導く門戸

が

開かれるという。

絶している。

坪井洋文の生死観図式

研究者によって、 オームス自身が述べているように、 多様な形で引用されることになった。 この図はその後多く

年祝/ (死の予祝) (死の予祝) 初十九日 四十九日 一年日 三年原

年忌 三年忌 改葬)

民俗学における魂の 循環

という論文を著 うな図を掲載して日本人の生と死を説明している 民俗学者の 坪 井洋文は、 Ī している。 昭和四五年に 坪 井はこの論文の中で、 「日本人の生死観 (坪井は 次のよ

> 霊期」 る<u>8</u> げ祭が行われる。 るのと対応して、 行には、 人化の過程」と「成人期」、死後の「祖霊化の過程」 たるまで様々な儀礼段階によって構成されているが、 坪井の説明によると、 井の作成した図は、 0 四つの区分に分けられる。 産屋に入る、 神祠に入るというのは、 誕生祝、 婚舎に入る、 オー 結婚式 日本人の一 ムスの図と微妙に異な (成人式)、 喪屋に入る、 それそれ 生は、 人は死んで神に 葬式、 の段階 生から死に 神祠に と 弔い つ 7 0 成

れた儀礼であるという。 成人化過程において行わ 宗教的に見ると、成人化過程は霊魂不安定期であっ れる儀礼は、 霊魂の安定に向け

なると考えられるためである。

この時期にも、 こうしてしだいに死霊が浄化されていくと、 安定期で、 返しながら成人としての活動の末期に近づいていく。 は成人式が鎮魂による魂の安定を迎えた機会とされている。 死を迎えて肉体と魂は分離する。 図では結婚式が過程の区切り目になっているが、 生 者は死後 三十三歳や四十二歳の厄年など鎮魂を繰 0) 霊 に対 して種 祖霊 Þ 0 化の過程は魂 気づ 弔 か V 上げとと 61 説 をする。 る不 開で

オームスの作成した図

体を掲載している。)。

一から示唆を受けたことを記しており、

論文の注におい

て、

オー

・ムスの

「家のシンボルとしての先祖

0

けなどは異なるものの、構造自体に大きな差異は存在しなら誕生までを「祖霊期」としているが、また儀礼の位置づら誕生までを「祖霊化の過程」の終了である三十三回忌かを「成人期」、「祖霊化の過程」の終了である結婚から葬儀まです。ムスの「成長の過程」の終了である結婚から葬儀までもに魂は個性を失い祖霊となって安定期を迎える。

いように見える。

を持つ儀礼でもあります。」ということになるのである。 (9) がで次の過程に移行して再び生まれ替わってくる可能性 がでは、魂は循環しているのである。要するに、「祖霊化 形では、魂は循環しているのである。要するに、「祖霊化 がで次の過程に移行して再び生まれ替わってくる可能性 がて次の過程に移行して再び生まれ替わってくる可能性 の霊魂観を考える上で、決定的に異なる点がひとつ存在す の霊魂観を考える上で、決定的に異なる点がひとつ存在す の歌ってある。

柳田国男と魂のゆくへ

される著名な一文を引用しておくことにしよう。観念の到達点といわれる『先祖の話』から、しばしば引用ら柳田国男によってなされてきた。柳田国男による死後の祖霊化した魂が再び生まれ替わるという指摘は、早くか

私がこの本の中で力を入れて説きたいと思ふ一つの

とである。 とである。 とである。

どこかに存在することになる。
どこかに存在することになる。
だこかに存在することになる。
が、先祖の御霊といっしょになって祖霊となるのである。生まれかわりは、祖霊の一部が子孫の肉体なるのである。生まれかわりは、祖霊の一部が子孫の肉体に入ることによって生じる。我々は、先祖と子孫の中間にに入ることによって生じる。我々は、先祖と子孫の中間にに入ることによって生じる。

通過儀礼にみる生と死の儀礼の対応

を分析してみせたのは昭和四八年のことで、図3の著書ときた。宮家がオームスや坪井の指摘をもとにして通過儀礼きた。宮家は日本人の通過儀礼の構造分析に強い関心を抱いて宮家準である(図3)。

昭

しての初出は『生活のなかの宗教』(日本放送出版協会、

と祖先神は神道、 さらに精緻 とを指摘 が宮家の した点であるが、 化 図を引用して説明しているの した図となっ 成 人と祖霊化は仏教と結び付 てい 全体としてはこれまで は 宮家が 0) 7 指 V3 摘を るこ 昭

和

和

五五年)

である。

成人の過程では父親

の影響を強

く見 人

てい

、る点、

子 親

供 0

0

成長

宮家の図で特徴的なのは、

成

化

0

過程に母

影響を、

厄年(33歳) 女性 一 結婚式 婚舎 厄年(42萬 男性 母 成 成 숲 社 濫 · 独 立 生 環層 殖家族 古稀 安 家族) 11 ウブアキ 米寿 お七夜(名付) 定 この世 定 葬式 産屋 帯祝 あの世 祖 初七日 霊 (他界 霊 四十九日 祖霊 化 百カ日 死霊か 一周忌 安 安 三周忌 定 神祖 ら祖霊 七周忌 擅 十三周忌 (守護) 三十三年忌 五十年忌 (とむらいあげ)

図3 宮家準の生死観図式

体は である。現代、 て用いられてい 平成六年)に掲載され、 通過儀礼を説明 五 五 年以降も、 (東京大学出 『宗教民俗学入門』 それも限りなく今に近い時点で、 る。 版会、 しばしばこの してい 図は掲載されていない 平成元年)、 るからである。 日本人の生と死 (丸善株式会社、 図を用い 『日本の 同 て日本人の生と死 平 の儀 民俗宗教』 じ図 成 b 礼 が 0 兀 0 0 年 このよう 『宗教民俗 対応とし (講談社 b 説 朔 同 白 0

		誕生及び成長の儀礼	葬儀及び祖霊化の儀礼
直	前	人玉があがる (予兆)	人玉があがる (予兆)
		魂よびをする (難産の時)	魂よびをする
		背負い縄をかけて魂むか いに行く	魂むかいに行く(二人の 使い)
		産 屋(別火)	喪 屋 (別火)
直	後	産 石	枕 石
		産 飯	枕 飯
		産 湯 (日のあたらぬ 所に捨てる)	湯 潅 (日のあたらぬ 所に捨てる)
		神棚に半紙をはる	神棚に半紙をはる
		まよけの刀をおく(生児)	まよけの刀をおく(遺体)
		産衣 (一日でぬう)	経かたびら(その場でぬう)
成長·祖霊化		命 名	戒 名
		お七夜	初七日
		忌あけ	四十九日
		初節 句	初 盆
		初誕 生	一周忌
		七五三	三・五回忌

生と死の儀礼の対応 表 1

な調 かどうか。 和 0 取 れた美 私 0 関心はこの点にある。 Û 1 魂 0) 循 環を認めることが可

能

な 0

化する霊 ・崇る霊

先に引用した論文の中で、 坪 井は誕生から成人、 結婚を

死亡による悪霊化 (無縁化・生まれ替り) 横死による悪霊化成 カミカクシ 魂 不 成 安 化過 程 顕 界 生・生 稇 界 死 相 鹽安 定期 需 期 祭祀不修による 悪霊化 (祟り) 化 生と死の環を示す 霊魂の環を示す

坪井洋文:生死観を示す霊魂の諸過程 図 4

(御霊化)

期

袓 d 霊 化 過

成

霊

魂

安

定

期

不

安 ユウレイ

定 期

死亡 マクラダンゴ クイワカレ クチョセ 死 ヤノムネ

ユメミ

マツリナオシ

経て 程を経験することのできなかっ 到 ŋ 祖 霊化 して生まれ た者の霊に言及し かわ る、 0) て 13 連 る。 0

過

る。 (12) りをしたり、 る祖 よる悪霊化」 生まれかわり) の子であるとして再び生まれかわることが期待される。 4では 場 合には 井によれば、 霊期に、 「結婚・成人」の上に死亡による悪霊 家の 霊を鎮めるための十分な儀礼を子孫が行 (御霊化) が生じる。 悪霊化することもあります。」 と記されている。 永続は保証されなくなり、 幼くしてこ 0 環から外れた者であ また成 さらに死霊 人期には と書かれ 0 13 化 わ 安定期であ VΦ (無縁化 る 横 ħ タタタ わ 死に ば 図 神

る。 な を決定するからである。」 祖先崇拝を通して、 のように説明している。 れている。 こうした表現は、 ほどに強められる。 本来「家」で祀るべきものであるという前提から 家が重要であることは、 オームスは祖先崇拝における家の 家の 祟る霊 それは死を超越 相互の結びつきが、 一祖先崇拝の主な関心は家である 13 関 家における地 して直接表れ 位 が死 決して消滅 た説明 永遠に存続 重要性を次 後 0 で は 運 命

星になる

近 年、 不慮にして亡くなった人の行く先を説明するた

分かっているんですが。
「ママは、お空に行ってお星様になったんだよ」。夜「ママは、お空に行ってお星様になったんだよ」。夜えてきました。でも結局答えは見つかりませんでした。

な」と言っています。める時、空を見上げながら「今夜は、ママが見えるかめる時、空を見上げながら「今夜は、ママが見えるかでも何かは感じているようです。夜、カーテンを閉

子供たちに「星になった」と説明することは、それほど 特別なことではなさそうである。作家の吉岡忍は「子ども を持ってかけつけた。吉岡はそうした手紙のいくつかを を持ってかけつけた。吉岡はそうした手紙のいくつかを を持ってかけつけた。吉岡はそうした手紙のいくつかを を持ってかけつけた。吉岡はそうした手紙のいとでかる。 アイドル歌手の岡崎有希子が飛び降り自殺をした でいる。 アイドル歌手の岡崎有希子が飛び降り自殺をした でいる。 アイドル歌手の岡崎有希子が飛び降り自殺をした を持ってかけつけた。 古間はそうした手紙の がある。 作家の吉岡忍は「子ども のも光り輝いていてね」

としての祖霊と一体化することが必要だという霊魂観と、死者の魂が安定して存在するためには、個性を失って集団残っている。それでも「星」との距離は微妙かもしれない。な生者の近くにいて見守っているという感覚は、加田にも見られた。「星になって見守る」という感覚は、柳田「星になってあなたを見守る」という表現が千の風の中「星になってあなたを見守る」という表現が千の風の中

の中で、女児がホラー映画などオカルトや占いの影響を受た刺殺事件は大きな衝撃をもたらした。家庭裁判所の審決成一六年六月、長崎県佐世保市で小学六年生の女児が同級成一六年六月、長崎県佐世保市で小学六年生の女児が同級 民俗学でいう生まれかわりも、現在の若年層の一部に見

けていたことが明らかにされた。

と回答した。中学二年生が一八・五%でもっとも高く、まと思いますか」という質問には全体で一五・四%が「はい」の・一二月に「児童生徒の「生と死」のイメージに関する一・一二月に「児童生徒の「生と死」のイメージに関する長崎県では、児童殺傷事件の判決要旨に「死のイメージ」

在することはない。

その霊魂観を支えてきた永続する「家」はもはや明確に存

響であることと理解できる。また都市部で強い反応が見られるのは、メディアなどの影中学生が、伝統的な霊魂観を持っているとは考えがたく、た都市部ほど高かったことも明らかになった。現在の小・

祖先崇拝のゆくえ

社会学者の森岡清美は、今日祖先崇拝は危機にあると指えている。森岡は『真宗教団における家の構造』(御茶筋している。森岡は『真宗教団における家の構造』(御茶の水書房、昭和五九年)など、家と先祖との関わりについて団出版局、昭和五九年)など、家と先祖との関わりについて団出版局、昭和五九年)など、家と先祖との関わりについてある。たんなる感想以上の、学的背景を持った言明である。

知い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬのは老人、それも殆どがするべきこと、したいことはのは老人、それも殆どがするべきこと、したいことはのは老人、それも殆どがするべきこと、したいことはのは老人、それも殆どがするべきこと、したいことはのは老人、それも殆どがするべきこと、したいことはのは老人、それも殆どがするべきしないが、残された遺族の時代には、慰霊鎮魂の必要性は実感を持たなくなってしまっているのではないから遺族に映りつつあるのではないか、ということでから遺族に映りつつあるのではないか、ということでは、一般には、大祖供養でケアされるべき人が死者・故人のと思うのであり、(8)い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬ幼い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬ幼い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬ幼い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬ幼い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬ幼い子、若者、壮年の人々はめったに死なない、死ぬ幼い子、若者、

だろうか。 しかしながら、それでは、死者の魂はどこへ行けばいいの年による「千の風になって」の大合唱も十分に理解できる。ケアされるべき人が残された遺族であるとすれば、中高

とができたが、今や市場化されねばならない」と指摘したができたが、今や市場化されねばならない」と指摘したは、宗教の世俗化を分析したピーター・バーなった。さらには、宗教の世俗化を分析したピーター・バーなった。さらには、宗教の世俗化を分析したピーター・バーなった。さらには、宗教の世俗化を分析したピーター・バーは、社会全体を覆う意味体系を与えることができなくい、社会全体を覆う意味体系を与えることができなくい。とれて美地の大学に表した調和のとれた美地のできたが、今や市場化されねばならない」と指摘したとができたが、今や市場化されねばならない」と指摘したといいできたが、今や市場化されねばならない」と指摘したといいできたが、今や市場化されねばならない」と指摘したといいできたが、今や市場化されねばならない」と指摘したといいできたが、

よう(19) を喪失していったと言い換えることもできるだろう。 消費と情報の中でもみくちゃにされ、本来の聖性

思いに対する柳田の回答であったといわれる。 彼の残した『炭焼き日記』を引用して論じられる。 めに戦って死んだ若者だけは無縁仏にしたくない、という 柳田が『先祖の話』を燈火管制下で熱心に書いたことは 国のた

が靖国神社を訪れたと報道された。また靖国神社に関する 再考される必要がないだろうか。 るとすれば、改めて慰霊や追悼を論じることの意味自体が の関心にしろ、霊魂観の構造的変容が時代の背景に存在す 多くの本が出版され、人々の関心を集めることになった。 小泉前首相時代の靖国神社参拝をめぐって、多くの若者 柳田の残した祖先観にしろ、あるいは靖国神社への若者

- たとえばロバート・スミスは論文の中で、先祖の居場所 を問題にしない点が日本的であると指摘している(「比 と祀り方が家によって異なっており、異なっていること 較文明学の視点から見た日本人の宗教的態度」梅棹忠夫・
- $\widehat{2}$ 宮田登『冠婚葬祭』岩波書店、平成七年、 石毛直道編 『近代日本の文明学』 中央公論社、昭和五九年) 。 九七頁。
- 3 同、八〇頁。
- 4 一三六頁。

5 「家のシンボルとしての先祖」『祖先観と社会構造』東京 教育大学、第六回日本民族学会研究大会シンポジュウム

昭和四二年。

6 ズム』弘文堂、 以下の説明はヘルマン・オームス『祖先崇拝のシンボ 昭和六二年、九八・九九頁。 ij

7

- 坪井は論文の注で、オームスの見解に関しては、 雄教授古稀記念論文集 坪井洋文「日本人の生死観」論文集刊行委員会編 昭和四五年。 民族学から見た日本』河出書房 別の 機
- 会に批判を加えたいとも述べている。
- 同、二〇~二一頁。

9

8

- 10 柳田国男「先祖の話」『定本柳田国男集第一〇巻』 昭和四〇年。 筑
- 11 坪井洋文「関連諸学から風俗史学へ―宗教学の立場から」 教の構造』(慶応通信、 『風俗』第一二巻第一号、 昭和四九年)に所収。 昭和四一年。宮家準 『日本宗
- 前掲書、二一頁。
- 13 12 前掲書、 八九頁。
- 14 吉岡忍「子供の生死観」野田正彰編 の世とこの世』小学館、 平成八年。 現代の世相4 あ
- 『あの世と日本人 浄土思想の諸相 日本出版協会、 平

15

16 九頁。

17

三四号、平成一七年

森岡清美「先祖供養と家族」『中央学術研究所紀要』

第

- 19 18 ピーター・バーガー 同、一六~一七頁。 『聖なる天蓋』 新曜社、

昭和五四年、

20

二二三頁。

を執筆した小池淳一は、こうした一般的な理解と同時に『柳田国男事典』勉誠社、五六六頁。『先祖の話』の項目 いる。柳田の他の文献を重ね合わせた検討の必要性を指摘して

(國學院大學教授)